

第1回「北洋材利用に係る意見交換会」の概要について

- 1 日時 平成20年6月9日（月）16:00～18:00
- 2 場所 農林水産省 林野庁会議室
- 3 議事
 - (1) ロシア丸太輸出税の引き上げについて
 - (2) 北洋材の輸入及び利用の状況について
 - (3) ロシア丸太輸出税引き上げの影響について
- 4 出席者の主な発言内容
 - ロシア国内では、販売不振から伐採から撤退してしまう業者が増加するなど、伐採量が減少していることから、原木輸出量の現状維持は困難。製品の輸出は欧州や中国がメインで、日本向けには質・量ともに期待できない見込み。
 - 富山県内の北洋材製材は、現在、製材能力に対して約半分の稼働状況。
 - 北洋材製材メーカー（富山県内）の今後の対応は、①原木挽きから半製品挽きへの特化、②製品輸入にシフト、③とりあえず原木輸入がストップするまで様子を見ながら原木挽きの継続、④製材からの撤退などを検討。国産材シフトを考えているメーカーもあるが、原木の供給能力、製材に適した原木の品質、スギ製材のための設備投資等が課題。
 - ロシア丸太輸出税引き上げもあるが、住宅着工減の影響から、木材需要が大きく低迷していることが問題。
 - 合板での北洋材の利用は約50%。主に構造用合板を製造。国産材の利用（現在約30%）を進めているが、ロシア丸太輸出税引き上げで原料の安定調達に不安を抱いている。国産材の持続的、安定的な供給をお願いしたい。
 - これまで市場では、北洋カラマツを使用したラージ合板が主体であったが、現在は国産材（スギ・カラマツ）合板も受け入れられている。安定供給、価格の安定が重要。
 - 原木価格が上昇することは、国内林業にとっても歓迎すべきことであるが、木材供給の急激な変化は、木材産業に大きな影響を与える。製材利用、合板利用を考慮した原木の安定的な供給が重要。
 - 世界的な原料不足の時代となっている。国産材の供給量、需要量、価格のバランス、マッチングが大切。